時の流れを慈(いつく)しむまち　福津

福津市景観まちづくり会議　提言書

目　次

１．はじめに----------1

（１）小さくてささやかで、毎日目に触れるものを大切に ----------1
（２）お宝景観とフットパス ----------2

２．フットパスからはじめる景観まちづくり----------3
（１）景観のあり方を考える ----------3
（２）フットパスの魅力を高める----------4

３．フットパス毎の魅力のまとめ----------5
自然班①　海岸のフットパス----------5
自然班②　松林のフットパス----------6
自然班③　福間浦周辺のフットパス----------7
歴史班①　宮地嶽神社周辺のフットパス ----------8
歴史班②　畦町周辺のフットパス ----------9
歴史班③　津屋崎千軒周辺のフットパス ---------- 10
生活班①　古墳群周辺のフットパス---------- 11
生活班②　山間集落のフットパス ---------- 12
生活班③　西東集落周辺のフットパス---------- 13
生活班④　本木集落周辺のフットパス---------- 14

４．おわりに----------15

私たちは、福津の
豊かな自然が大好きです。
美しい砂浜、海が大好きです。
歴史を感じさせる町並みが大好きです。
福津に住んでいる人が大好きです。

福津市が大好きです。

私たちは、「景観」という言葉に興味を持ち、
福津の景観を考える取り組みに参加しました。

そして、気づきました。

福津には、良い景観もあれば、悪い景観もあるということを。
良い景観は守り、悪い景観は良くしていかなければならないということを。

私たちに出来ることがあります。
私たちでやらなければならないことがあります。

私たちの「ちょっとした気遣い」が景観を変えます。

景観まちづくり。

私たちから少しずつ、始めていきます。

福津市景観まちづくり会議　一同

１．はじめに

（１）小さくてささやかで、毎日目に触れるものを大切に

「市役所がまた新しいことを始めるらしいけど、景観まちづくりって何だろう？」。

私たちが「福津市景観まちづくり会議」に参加したきっかけは、こんな素朴な疑問からでした。

郷づくり協議会から依頼を受けたり、所属団体の代表として参加したり、市の公募に応えたり等、参加方法はさまざまですが、最初はみな同じ疑問を抱えてこの会議に参加しました。

私たちの活動は、就任して間もなくの平成 24 年 8 月に開催された景観セミナーに参加することから始まりました。

そこでは“いい眺めってなんだろう？”をお題にした話し合いも行われたのですが、景観の専門家である仲間浩一先生のお話に、私たちは大変感銘を受けました。

▲景観セミナーにて

「大きくて目立つもの、新しくて清潔なもの、専門家が評価するものは計画によく登場しますが、小さくてささやかなもの、毎日目に触れるもの、ご近所が大切に思うものはあまり登場しません。でも生活者の立場からいっそう大事にしなければならないのは、小さくてささやかなものたちのほうであり、これらが暮らしの基本となっています。暮らしの基本は歩くことや相手の顔が見えることであり、そのための小さくて狭くて細い道を大切にし、そこで得られる体験や眺めを大切にすることが大事です」。

▲大きくて目立つものの例

▲小さくてささやかなものの例

今回、私たちは、これら「小さくてささやかなもの」「毎日目に触れるもの」「ご近所が大切に思うもの」を話し合いの中心にしました。

自分たちだけが知っている良い景色や、いつもごく普通に利用している小さくて狭くて細い道を出し合ったり、実際に見に行ったりして、その景色が今どうなっていて、良い景色をどうすれば守れるか、またどうすれば良い景色に変えられるかを話し合い、決めていきました。

（２）お宝景観とフットパス

「自分たちだけが知っている良い景色」や「いつもごく普通に利用している小さくて狭くて細い道」を何と呼ぶか。会議をする上では必要なことです。

専門家の方と市から、このような提案がありました。

自分たちだけが知っている良い景色

↓

お宝景観

（普段の生活や活動の中で、よく使われている道、美しい海や田園、山並み、夕日の風景などの他の人に誇りたい眺めなど。また、今後そのような景観となるように磨きをかけていきたい景観）

いつもごく普通に利用している小さくて狭くて細い道

↓

フットパス

（イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】」のこと）

お宝景観は他の人に誇りたい眺めであり、フットパスはそれらお宝景観をつなぐ道、またお宝景観そのもののありかでもあります。

私たちは、これらの言葉「お宝景観」「フットパス」をキーワードに話し合いを進めました。

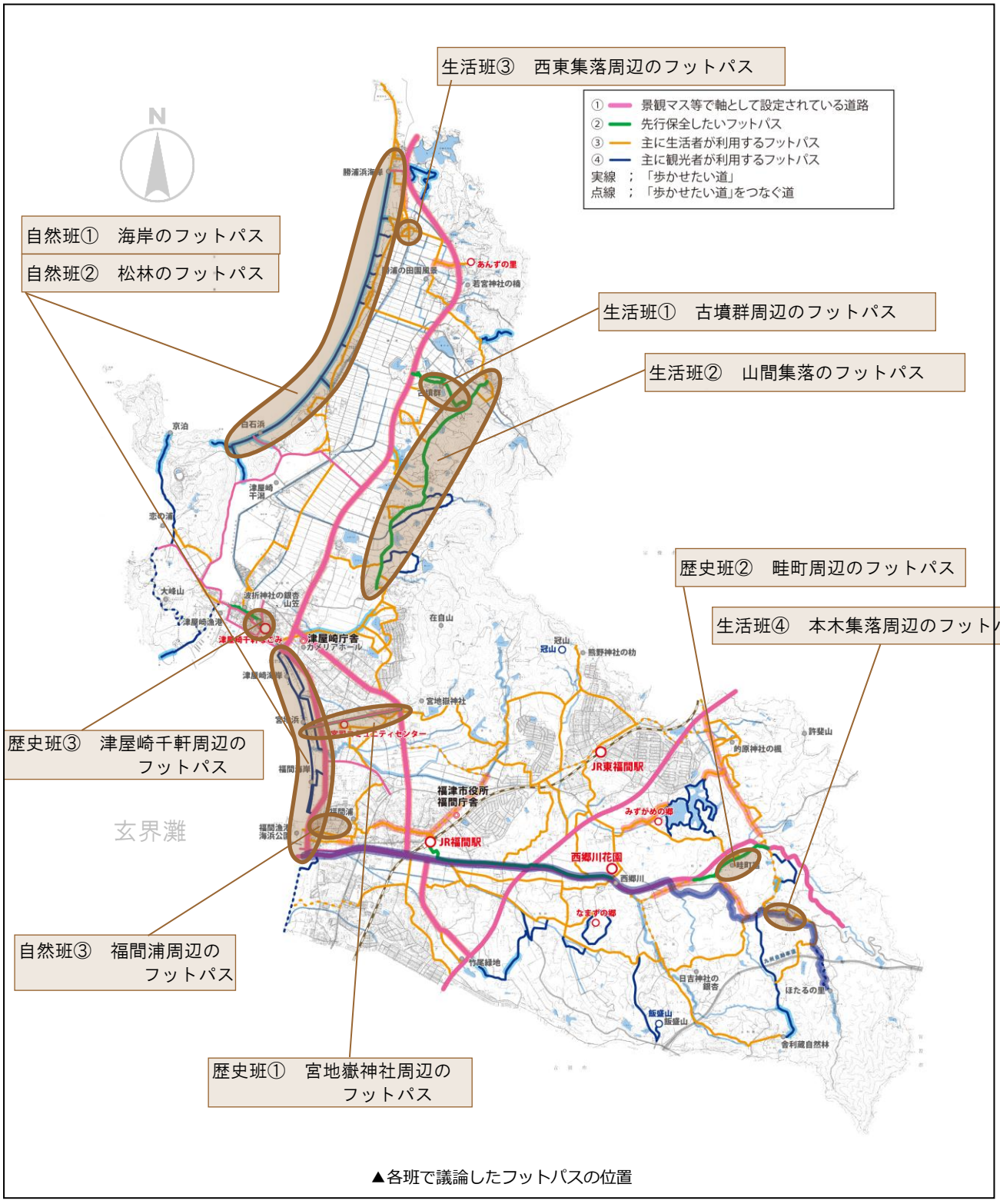
全６回、約１年にわたる会議の日程・内容・結果を、以下のようにまとめています。

回	日程	主な目的	結果
第１回	H24.9.28	重点テーマ・ポイントの絞り込みとまち歩き候補地検討	歴史、生活、自然のグループに分かれ、暮らしの中で大事に思っている景観を挙げた。その内、大事な景観ベスト３を班ごとに決めた（講師：転野先生）
第２回	H24.11.11	まち歩きワークショップ①	津屋崎地域の現地視察。良い景観、気になる景観を検証した（講師：大森先生）
第３回	H25.1.20	まち歩きワークショップ②	福間地域の現地視察。良い景観、気になる景観を検証した（講師：松山先生）
第４回	H25.2.27	“お宝景観”の特定とあり方の検討	現地視察を行った 10 か所について、将来的にどうすれば良いかを考えた（講師：田上先生）
第５回	H25.5.8	景観ルールとキャッチコピー検討	将来のあり方を考えた景観について、多くの人に興味や親しみを持たせるためのキャッチコピーを考えた（講師：転野先生）
第６回	H25.7.3	計画の確認と“眺め”のブランド化に向けた戦略検討	フットパスを中心としたその地域にふさわしい写真の選定と、その景観の改善方法や取り組みを考えた（講師：仲間先生）

2．フットパスからはじめる景観まちづくり

（１）景観のあり方を考える

1-（3）の一覧表で紹介したように、私たちはまず第 1 回会議で 3 班（自然班、生活班、歴史班）に分かれ、市内の代表的・典型的な 10 のフットパスについて学び、現地を訪れ、そしてその望ましいあり方を考えました。その場所・位置については以下の地図のようになっています。



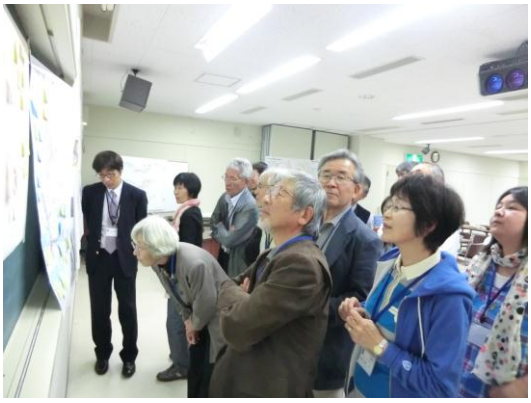
▲各班で議論したフットパスの位置

（２）フットパスの魅力を高める

その後、多くの人に興味を持ってもらうためのキャッチコピーや、自分たちにできることを考える回では、班を再編成して考えました。

「キャッチコピーを付ける」という作業は、私たち素人には大変な作業でしたが、専門家の方の手助けやご指導もあり、たくさん出すことができました。

一番多くキャッチコピーが付けられたのは海岸で、２４ものコピーが生み出されました。合計では８９コピーで、人気投票第１位は「風の音　波の音　光の町　福津」、専門家の方が選んだ特別賞は「どこいくつもり？福津盛り」でした。



▲みんなで人気投票（第５回会議にて）

（事務局より）

キャッチコピーを景観まちづくり会議の皆さんに考えていただいた後、景観専門家会議の委員であり、ブランディングの専門家である耘野康臣委員に、皆さんの歴史に対する思い、自然に対する思い、生活に対する思い等を踏まえ、福津景観全体のキャッチコピーを考えていただきました。

「時の流れを 慈（いつく） しむまち　福津」

このコピーは、提言書の表紙に使用しているほか、今後の景観まちづくりに対する重要なキーワードとして位置づけることにしています。

福津に住んでいる人や福津を訪れる人に、私たちが素晴らしいと感じた福津のフットパスを、私たちがどう行動すれば知ってもらい、感じてもらえるのか。私たちが出した結論は、

・手作り看板や腰掛けなどを作っていくこと
・ごみ掃除や草刈り、花植えなどを行うこと
・イベントの開催やインターネット、既存のメディアを活用し魅力を伝えること
・お茶のみ会など交流の場を作ること
・行政掲示板の活用や、楽しめる道づくりなどを市役所に提案すること

などでした。

意外に自分たちでできることが多く、５つのうち４つは住民でできることだと分かりました。

▲最後まで真剣です（第６回会議にて）

第３章で、私たちがフットパスごとに話し合った結果をまとめています。ぜひご覧ください。

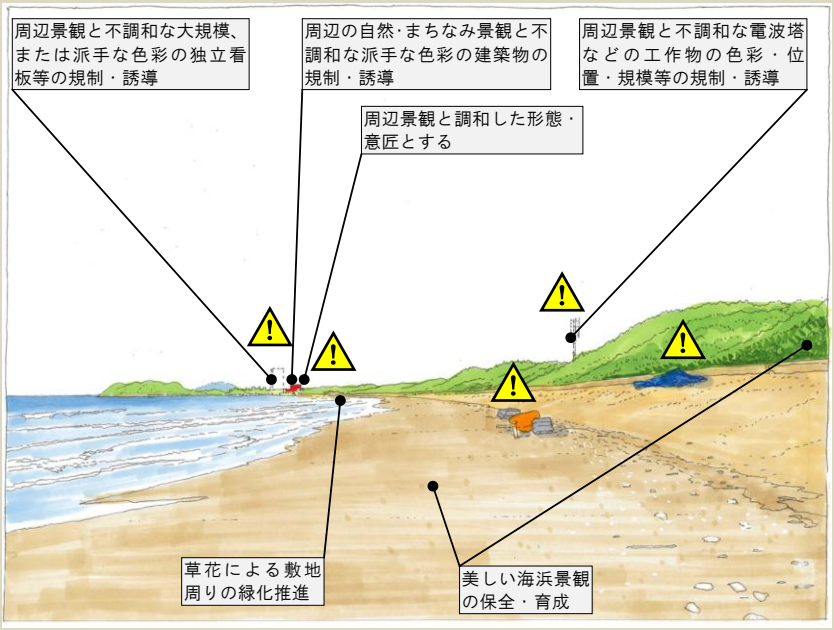
３．フットパス毎の魅力のまとめ

自然班①　海岸のフットパス

「四季を映す、雄大なキャンバス」

青い海、白い砂浜、松林が続く白砂青松の風景が広がるフットパスで、砂浜の先には大峰山や森山など、渡半島の山々がそびえています。砂浜沿いではマリンレジャーが盛んで、夏になると多くの海水浴客で賑わっています。また、福岡県内では数少ない西向きの海岸で、海に沈む夕日の景観を楽しむことができます。

海岸のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



美しい海辺の景観も砂浜にごみが散乱していたり、松林よりも高い工作物が作られたりすれば、景観は台無しになってしまいます。海辺のフットパスの景観を保全していくためには下に示すような対策が必要と考えます。

<主な対策>

・周辺景観と不調和な派手な色彩の看板・建物・工作物を規制・誘導
・草花によって建物の敷地まわりの緑化を推進
・ごみを無くし、美しい海浜景観を保全・育成

私たちにできること

海岸のフットパスの景観を守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・定期的に海岸のごみ拾いを行い、ウミガメが帰ってくる美しい海岸をつくります。
・貴重な海辺の植物を増やして、福津ならではの海辺の景観をつくります。
・海岸に馬車を走らせるなどして、海辺の心地よさを皆さんに知らせていきます。

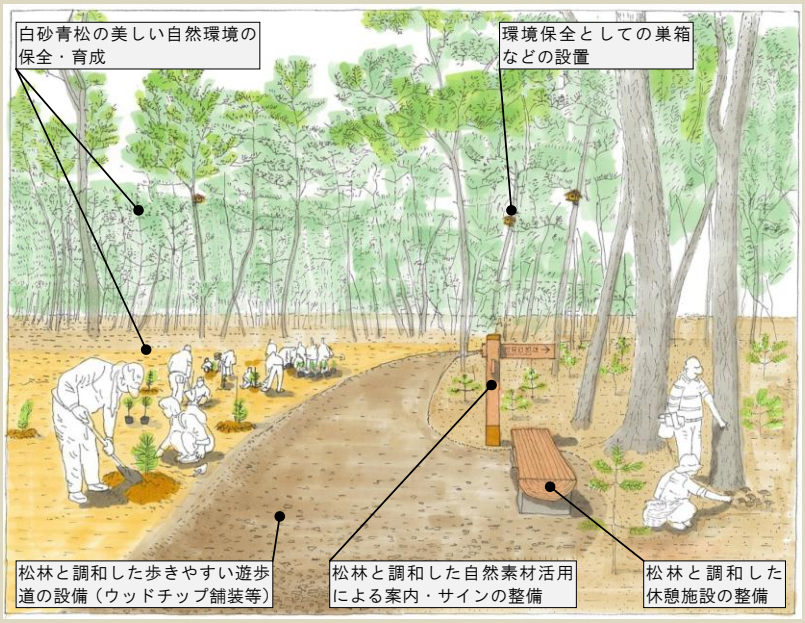
自然班②　松林のフットパス

「生活を守る松林、市民がつなぐ小径」

砂浜海岸の背後に広がる防風防砂林としての役割を果たす松林の中を通るフットパスです。津屋崎海岸から続く松林は、新宮町まで約 10km も続き、日本一の長さを誇っています。白砂青松の景観を形成するとともに、松林の中は太陽と木々が調和して生まれる木洩れ日が広がり、独特の心地よい空間を生み出しています。

近年、宮地浜を中心に地域ボランティアによる管理が行われ、松林が憩いの場として利用されつつあります。

松林のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



松林は人々の暮らしを守るために昔から営々と育まれてきた人工的な林であり、適度に人の手が入らなければ雑木林になってしまいます。木洩れ日が心地よい松林の景観を守っていくためには、下のような対策が必要です。

<主な対策>

・松くい虫対策・植樹など、美しい自然環境の保全・育成
・遊歩道、ベンチなど松林を利用できる空間整備
・イベントやインターネットを活用したＰＲ活動

私たちにできること

松林のフットパスの景観を守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

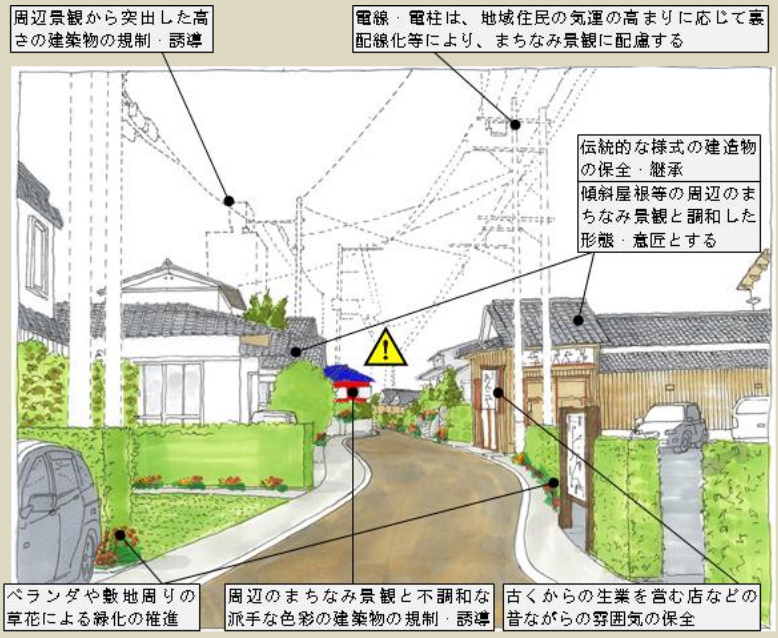
・私たちで手作り看板・ベンチなどをつくり、居心地の良い松林景観をつくっていきます。
・鳥の巣箱をつくる等して、松林の環境を守っていきます。
・松林づくりの活動を積極的にＰＲして、ボランティア仲間を増やしていきます。
・馬車散策や徒歩散策の良さをＰＲして、松林散策の楽しさを知らせていきます。

自然班③　福間浦周辺のフットパス

「今も残る、漁師町の空気」

昔ながらの細い路地が入り組み、ところどころで小さなお堂や神社を見つけることができるのが福間浦で、どこか懐かしさを感じる景観が広がります。古い建物で営業しているあんこ屋、氷屋、かまぼこ屋などからは、海運で栄えた浦としての面影を感じることができ、道路の脇に干されている魚からは、漁師町の面影を感じることができます。

福間浦周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



福間浦は古い地物（建物・塀・小祠など）が残る一方で、新しい建物や大きな建物が増えつつあります。これからは新しい建物を福間浦らしい雰囲気のある景観の中に溶け込ませていく必要があります。それには下のような対策が必要です。

<主な対策>

・昔ながらの雰囲気を保全
・周辺の町並みと調和した形態・意匠を誘導
・周辺景観と不調和な建物や工作物を規制
・敷地周りの草花緑化を推進

私たちにできること

福間浦のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・小さな祠や神社など、町の中に散りばめられた地域の歴史を守っていきます。

・干し籠などの漁師町の雰囲気を作り出す道具を道端に飾っていきます。

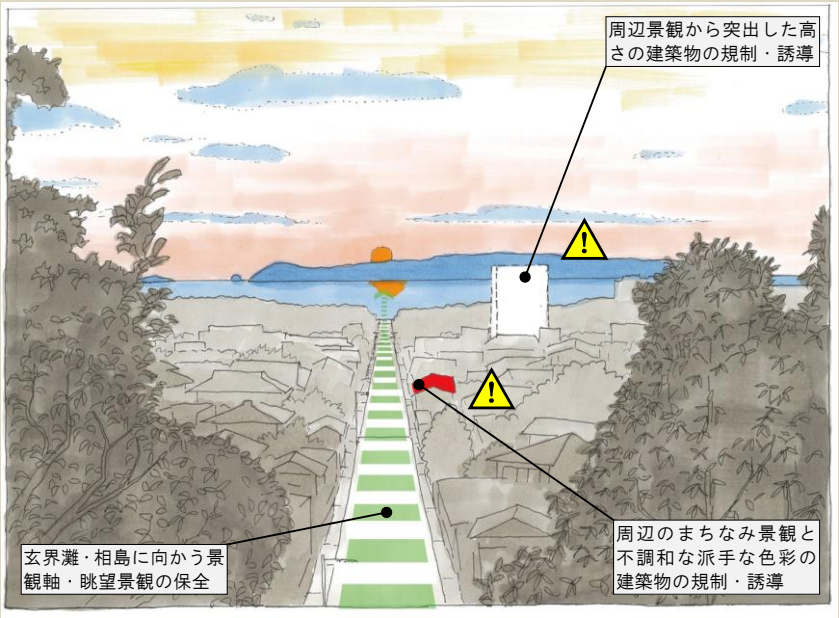
・漁師町の情緒に気を配った庭づくり、家づくりを心掛けていきます。

歴史班①　宮地嶽神社周辺のフットパス

「夕日が映える、社への道」

宮地嶽神社の境内からは、まっすぐ海岸まで伸びる参道と、その先に広がる相島や玄界灘の眺望を楽しむことができます。参道沿いには松ヶ枝餅が売られ、賑わいを生み出しています。この参道の延長線上に赤く染まった夕日が沈んでいく特別な風景は、年に２回だけ楽しむことができます。また、宮地嶽神社の鳥居は、伊藤伝右衛門が寄贈したことでも有名で、様々な歴史が凝縮されています。

宮地嶽神社周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



宮地嶽神社から海を見渡す方向の市街地には高さ１２m以上の建物が建てられない規制がありますが、それだけではこの景観を守り、育んでいくためには不十分です。宮地嶽神社周辺のフットパスの景観を保全していくためには下に示すような対策が必要と考えます。

<主な対策>

・イベントなどによる夕日のＰＲ
・玄界灘、相島に向かう景観軸の保全
・周辺景観と不調和な建物や工作物を規制

私たちにできること

宮地嶽神社周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・神聖な神様の眺めを壊さないように、海や相島への見通しに配慮して家をつくるように心掛けます。
・参道の鳥居越しに夕日が沈む一瞬を皆さんに知ってもらえるようにＰＲしていきます。
・松ヶ枝餅をたくさん食べる等して、参道の賑わいを生み出します。

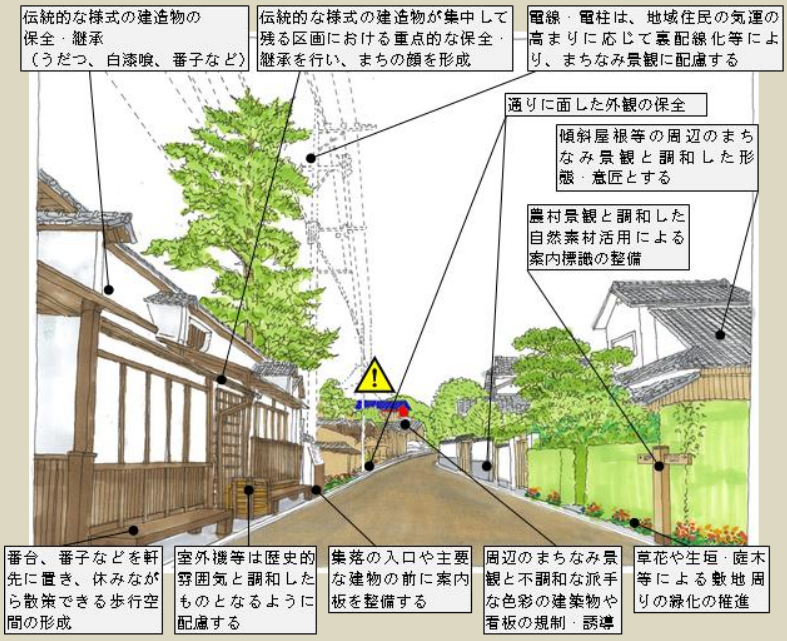
歴史班②　畦町周辺のフットパス

「番子（ばんこ）に座（すわ）って、歴史（れきし）語（がた）り」

畦町を通る旧唐津街道は、旧中村酒屋・旧小田牛乳店・護念寺など、かつての宿場町の趣のある道です。番子（簡易椅子）がある古い建物もあり、かつて通りを歩く人が一休みする場となっていました。また、畦町宿の端にある米一丸母観音からは、集落の様子と許斐山を見渡すことができ、良好な視点場となっています。

近年はまちづくり活動が盛んで、お祇園様池の再生・清掃活動など、様々なイベントの開催が行われています。

畦町周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



畦町では古い建物が多く残されています。しかし、空き家となり管理が行き届かなくなれば、建物は取り壊され、歴史を感じる町並みが失われてしまいますので、以下のような対策が必要です。

<主な対策>

- 古い建物が集中して残る区画を重点的に保全
- 休みながら散策できる歩行空間の形成
- 主要な場所に案内板・解説版を設置
- 周辺の町並みと調和した形態・意匠を誘導
- 集落を一望できる場所からの眺望確保

私たちにできること

畦町周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

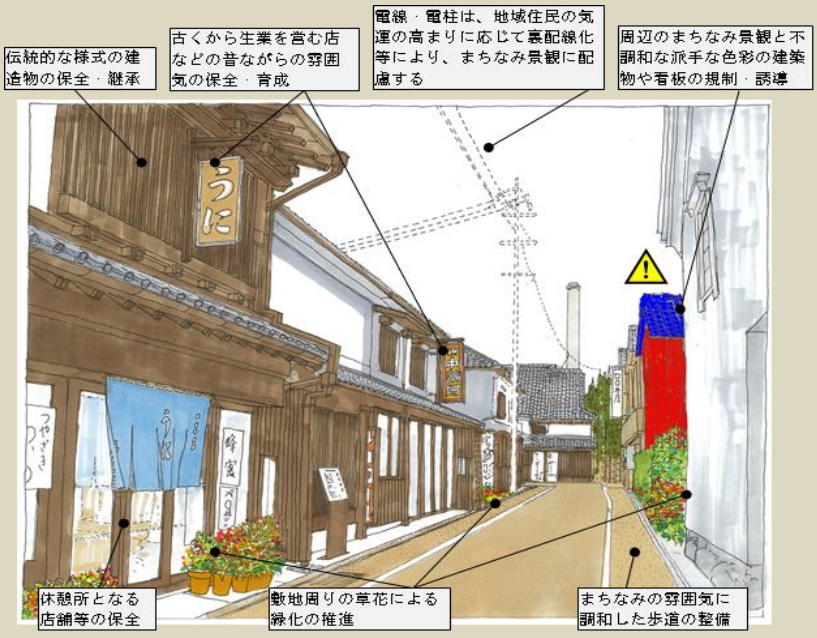
- **畦町をＰＲしていくために、私たちでロゴマークを考えていきます。**
- **畦町の古い写真を集め、飾り、畦町の歴史を皆さんに知らせていきます。**
- **竹を切り、畦町全体を見下ろすことのできる天満宮にしていきます。**
- **畦町ガイド、彼岸花の花壇、灯篭祭りなど、地域ならではの活動を盛り上げていきます。**

歴史班③　津屋崎千軒周辺のフットパス

「笑顔（えがお）がつながる小路（こみち）」

津屋崎千軒は、海岸に並行する千軒通りを軸として細い路地が縦横に広がり、古い地物が多く残された歴史の趣を感じる町並みです。また敷地いっぱいに建物が建っているので、建物と建物の間に塀がほとんどありません。建物と建物の間の空間（スアイ・ヒイヤ）は、かつて日常生活の抜け道として利用されており、現在でもその多くが残っています。

津屋崎千軒周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



津屋崎千軒には、町並み保全のためのガイドラインができました。このガイドラインに沿って、津屋崎千軒らしい町並みをつくっていきます。

<主な対策>

- ガイドラインに沿った景観まちづくりを実践
- 休憩場所となる食べ物屋等の保全
- 電線・電柱は町並み景観に配慮
- 周辺の町並みと調和した形態・意匠を誘導
- 周辺景観と不調和な建物や工作物を規制
- 敷地周りの草花緑化を推進

私たちにできること

津屋崎千軒周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・津屋崎千軒まちなみガイドラインに沿って、津屋崎千軒の価値を高めるようなまちづくりをすすめていきます。

・道端でちょっと休める場所（番子等）を作っていきます。

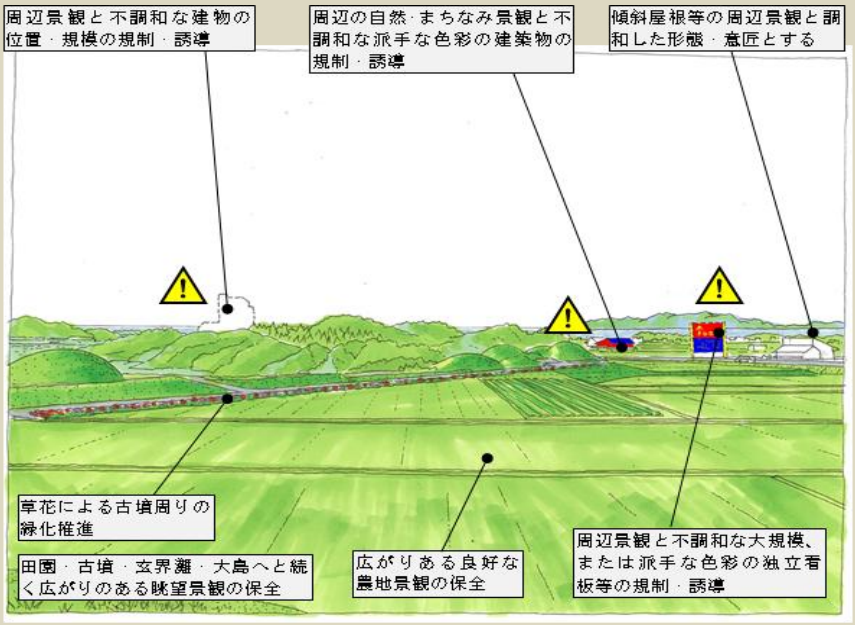
・スアイの眺めを守り、また通れるように、それを遮るものなどを置かないようにします。

生活班①　古墳群周辺のフットパス

「調和する今と古（ちょうわ　いま　いにしえ）」

かつて古墳時代の墓所だったことから、田畑の中に古墳が散在した独特の景観が広がるフットパスです。特に、山裾から新原・奴山古墳群を望むと、かつての内海だった田園地帯・農村集落・松林・玄界灘・大島を一目に見渡す絶景を見ることができます。また、新原・奴山古墳群の入り口にある縫殿神社古宮は緑と鳥居のコントラストが美しく、神聖かつ歴史を象徴する景色となっています。

古墳群周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



緑一色の田園と古墳の景色の中に、派手な色や大きさの建物・工作物があると非常に目立つ景観であり、ここではブルーシートを置いただけでも同じように目立ってしまいます。古墳を巡るフットパスの景観を保全し、育てていくためには細かな気配りが必要で、下のような対策が考えられます。

<主な対策>

・古墳・田園・玄界灘・大島を臨む眺望景観を保全
・周辺景観と不調和な派手な色彩の看板・建物・工作物を規制・誘導

私たちにできること

古墳群周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・古墳を望む美しい景観を、インターネットなどを使って私たちでＰＲしていきます。
・歴史的、文化的な価値に配慮した家づくり、庭づくりを心掛けます。
・やむを得ず派手な色のものを置くときには、田園や歴史的建造物等の景観に気を配ります。

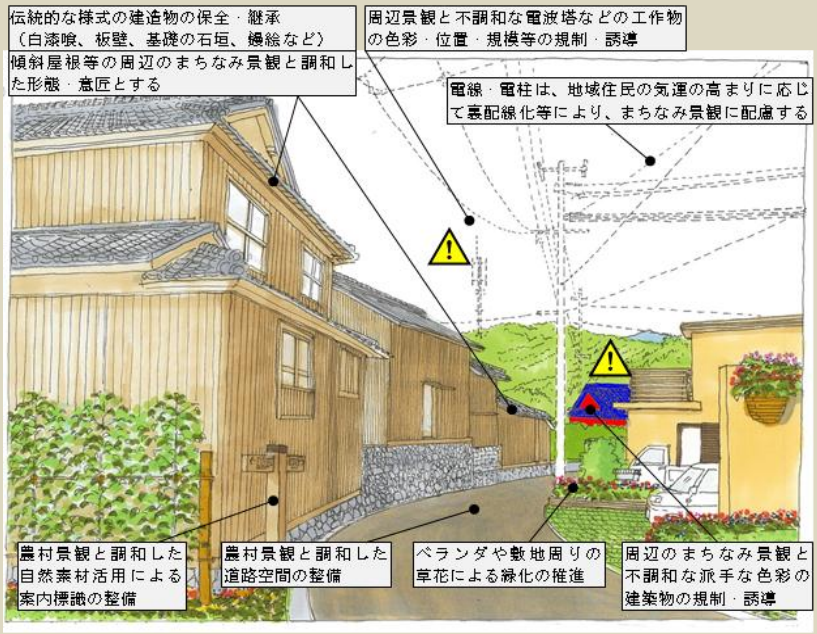
生活班②　山間集落のフットパス

「ゆったり時間（じかん）、山裾（やますそ）の景色（けしき）」

桂岳、大石山、対馬見山、在自山などの山麓に形成された集落をつなぐフットパスです。集落の中では、細い路地に座り込んで井戸端会議をする光景も見られるなど、ゆったりとした時間が流れています。

一方、集落と集落を結ぶ道は、少し高い所を通っているため、津屋崎の田園地帯・津屋崎の町なか・玄界灘などを見渡せる場所となっています。

山間集落のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



山間集落には、家屋の基礎部分の石垣・漆喰壁・板壁など、伝統的な様式の建物やきれいに剪定された庭木が残っています。しかし、雰囲気に合わない建物や空き家が増えたりすれば、山間のゆったりとした雰囲気はいつの間にか失われてしまいますので、下のような対策が必要です。

<主な対策>

・周辺の町並みと調和した形態・意匠を誘導

・周辺景観と不調和な建物や工作物を規制

・敷地周りの草花緑化を推進

私たちにできること

山間集落のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・空き家バンクやシェアハウスなど、空き家の活用方法を私たちで考えていきます。

・昔から続く小道に連なる集落の雰囲気にあった庭づくり、家づくりを心掛けます。

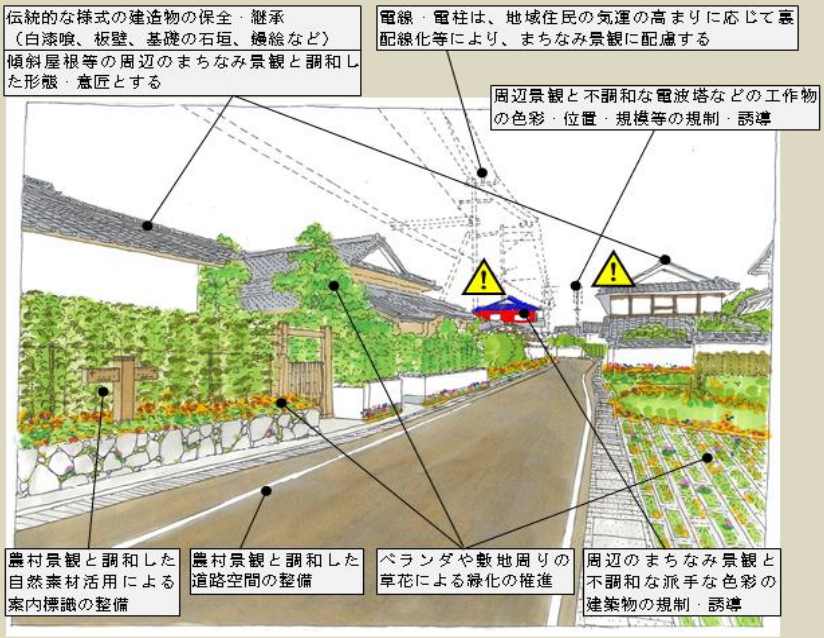
・ご当地看板を手作りで作ったり、ご当地見どころツアーを企画したりして、地元の人しか知らない景色を皆さんに伝えていきます。

生活班③　西東集落周辺のフットパス

「内海（うちうみ）を偲ぶ西東（にしひがし）」

広々とした解放感のある田園風景と集落内の入り組んだ細い路地…全く異なった景色を楽しめるのが旧内海のフットパスです。西東集落の外れには、船つなぎ石や塩の神、漁獲の神が祀られている年毛神社がひっそりと佇み、この地域の歴史を感じさせてくれます。また、集落には瓦屋根・板壁・生垣の民家が連なり、周辺の水田と調和した美しい農村景観を生み出しています。

西東集落周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



昔ながらの伝統的な様式の建物が今も残り、庭先や畦道に花が飾られ、もてなしの心を感じる農村景観が広がっています。しかし、周辺の雰囲気にそぐわない建物が建ったりすると、景観面で大きな問題となり得ますので、下のような対策が必要です。

<主な対策>

- 伝統的な様式の建物を保全・継承
- 周辺景観と不調和な建物や工作物を規制
- 電線・電柱は周辺景観に配慮
- 敷地周りの草花緑化を推進

私たちにできること

西東集落周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・年毛神社や船つなぎ石、海に抜ける小道など、海と隣り合わせであることを実感できる地域の宝をきれいに飾ります。

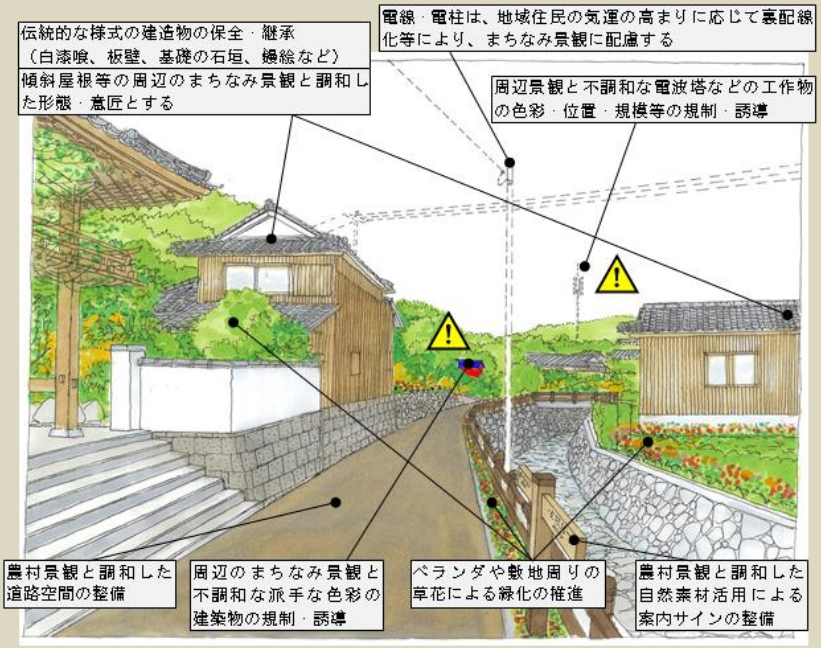
・津屋崎の塩を用いたおにぎり作り大会など、地域のものを活かしながら旧内海の良さを皆さんに伝えていきます。

生活班④　本木集落周辺のフットパス

「ここだけの贅沢（ぜいたく）、豊（ゆた）かな山間（やまあい）」

本木集落周辺のフットパスは、西郷川やその支流が谷筋の小さな平地や緩斜面を利用して形成された集落をつなぐ、丘陵に囲まれた豊かな農村景観です。本木集落の背後には川が流れており、潤いある景観を創出し、集落の中は、細い路地に鉱さいレンガの塀や石積みの基礎、板張りの建物などが並び、美しい山間集落の雰囲気を生み出しています。

本木集落周辺のフットパスの景観を守り、育むために必要なこと



川を軸にしながら連なる集落の周囲には、豊かな自然が広がっています。この豊かさは繊細で、安全対策のための白いガードレールがあるだけでもその魅力は半減します。このような景観を保全し、育てていくためには、下のような対策が必要です。

<主な対策>

- 周辺の町並みと調和した形態・意匠を誘導
- 周辺景観と不調和な建物や工作物を規制
- 電線・電柱は周辺景観に配慮
- 敷地周りの草花緑化を推進

私たちにできること

本木集落周辺のフットパスを守り、育んでいくために、私たちは以下のことに取り組みます。

・集落を流れる川を掃除して、憩いの場となるようなきれいな川をつくっていきます。

・豊かな自然に調和する手づくりの案内板や案内標識をつくっていきます。

４．おわりに

私たちにとってこの景観まちづくり会議は、学びの場であり、意見を出し合う場であり、そして人と人との出会いを生む場でもありました。目で触れるもの、耳で聞くもの、委員それぞれの活動とそれに対する思い…。驚きと感動の連続でした。

すべての会議を終えた、私たちの感想を一部紹介します。

・守るとこをつなげていきたい。これから勉強しなければならないと思った。
・勉強になりました。いいご縁を頂きました。
・皆さんの熱い思いで元気になれました。生まれた所を誇りにしたい。この会が広がるように！
・いつも見ている風景に感動！
・排除しない景観。いろんなものがあってよい。
・心、発信する、ひろげるなどの視点が参考になりました。少しは役に立ったかな？
・他に行かなくても食べられるマチに。
・福津を愛している人がたくさん！一期一会。一番住みたいまちになっている。歳を取ったら住みにくい！住みやすいまちに。
・こういう会にはなるべく出るようにしたい。車いすの立場で話をしてきました。
・景観と言いながら、やはりまちづくりだなと感じた。たくさんの写真があったが知らない所ばかりでした。
・市内にはいい所がたくさん！まちづくりに参加して 20 年になるが、20 年前にこんな場があればよかった。今後に期待します。

最後に、会議にかかわってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【福津市専門家会議の皆様】　※順不同

仲間　浩一　先生（トレイルバックス）

島谷　幸宏　先生（九州大学工学研究院　教授）

大森　洋子　先生（久留米工業大学建築・設備工学科　教授）

田上　健一　先生（九州大学芸術工学研究院　准教授）

松山　祐子　先生（１級カラーコーディネーター）

耘野　康臣　先生（ＮＰＯ法人九州コミュニティ研究所　理事長）

【福津市景観まちづくり会議】　※順不同、敬称略

松尾　治喜	坂口　勝繁	佐々木　謙一	江野　幸子	副島　かおる	富松　享一
小田　幹夫	水上　千鶴子	谷口　知文	小野　鈴代	花田　和樹	緒方　義幸
末廣　公香	大賀　康子	柴田　富美子	木村　航	佐藤　真弓	片岡　辰志
岩熊　寛	管田　隆一	吉村　勝利	正岡　功	金氣　順也	岡田　和憲
今村　雄吉	松尾　政信	貞金　景子	増田　美佐子	本木　孝節	櫻井　紀子
力丸　真理子	井上　進也				

（全 32 人）

時の流れを慈しむまち　福津

福津市景観まちづくり会議　提言書

平成２６年２月８日

福津市景観まちづくり会議